

(Japanese Academy of Learning Disabilities)

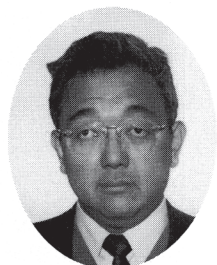


日本LD学会会報

第49号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内

〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル2F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-1213

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/>

全ての子どもたちの 「支援」のために…

甲西町教育委員会

小西 喜朗

甲西町で発達支援システム・特別支援教育に取り組んでの雑感を述べてみたい。

1. 「子どもたち」の学び方と認知特性を知る

甲西町では、4年間LDを中心に文部科学省の指導方法等の研究に取り組んできた。LDやその周辺の子どもたちをどう理解し支援していけばいいのかを考えると、行動や学習などを結果的な見方からではなく、その子のわかり方、学び方、できにくさに着目することの重要性が理解されるようになってきた。また、「児童・生徒の認知特性」への配慮等が授業研究で議論されるようになってきた。その背景には、心理検査等の情報を児童生徒理解や授業に積極的に活用するようになってきたことである。

必要なときに心理検査等の情報が身近に活用できる体制づくりが重要であり課題である。

2. 子どもたちへの支援：サービスの連鎖

学校では、自分たちの仕事を分掌として守備範囲を決める縦割りの発想から、事案ごとに関係者

がグループを組んでその都度一緒に支援していくチーム・ワークの重要性を学んだ。総合窓口で一旦受け、問題を構造化（情報の整理と共有化）し必要な校内での支援の連鎖を考えていく。従来の子生指導、教育相談などの会議が支援会議などに機能的に一元化されてきた。定期的にケース検討の機会が持たれ個別の支援が動き出すようになってきた。また、虐待など学校の枠を越えて福祉・保健などの人たちと一緒に取り組み、支援のタイミングや優先順位の重要性を学んだ。

3. 子どもたちの「支援」への戦略

事例を俯瞰しつつ、子どもに何が必要なのか、どういうことができるのか、家族を支えるにはどうすればいいのか、そのためにどんな福祉・保健のサービスの組み合わせがいいのか。最初は子どもの問題ばかりが目について戸惑うばかり。巡回相談活動で事例毎に継続的に課題を整理し担任・保護者等への支援が益々必要になる。全ての支援が子どもたちに「満足」されるよう目指したい。